

書き言葉におけるコトニナルの使用実態
—BCCWJ の例を用いて—

ちん しゅういん
陳 秀 茵 神戸大学大学院

本研究は日本語教育における用法説明や例文提示の基礎データを得ることを研究目的とし、書き言葉におけるコトニナルの使用実態を明らかにしたものである。本発表では主にコトニナルの使用実態調査の結果(最も多く現れた用法や、各用法に前接する動詞の上位 10 位、<ジャンル>ごとの後接形式の出現状況など)を示す。

本研究の構成は以下のようなものである。まず、鈴木(2017)の分類を参考にし、コトニナルの意味用法を表 1 の 7 種に分け、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)で収集した用例(7997 例)を意味分類する。

表 1 鈴木(2017)におけるコトニナルの意味用法の分類

		説明	テンス・アスペクト
A	A-1-1 予定の決定	P を(将来)真とすることが(何者かによって)決定される。	P:ル, テイル形 主文:自由
		(1) あのとときの会議で九月に解散することになった。(高橋, 1998) (2) 来週の会合は山田が出席することになっている。	
	A-1-2 規則・きまりごと	規則、きまりごとにおいて P が真であるべきだとされる。「ことにされている」とほぼ言い換えが可能である。	P:ル形, 主文:テイル, テイタ形
		(3) 当時の規則では毎年点検を行うことになっていた。	
	A-1-3 特定領域での事象認定	他者の認識や記録・記憶などある特定の領域において P が(事実とは関係なく)真であるとされる。	P:タ, テイル, ル形, 主文:自由
		(4) a 家では出張に行ったことになっているが、実は友達と旅行に行っていた。 b 家では出張に行っていることになっているが、実は友達と旅行に行っている。 c 家では出張に行くことになっているが、実は友達と旅行に行くのだ。	
A-2	A-2-1 論理的帰結	ある論理的な筋道にしたがえば「P」が真であると認定される。	P:自由 主文:ル形
		(5) 今ここで働いている工員は約千人だが、この工場は一日三交代制だから、実際にはもっとおおぜいの工員がいることになる。(森田・松木, 1989)	
	A-2-2 ある視点からの事象把握	ある物の見方では「P」が真であると言うことができるとされる。	P:自由 主文:ル形
		(6) この本を旅行案内書として見れば、情報不足の役に立たない本であることになり、文学作品として見れば、また別の評価ができる。	
A-3 主体意図を離れた事象化	現実世界における他者認識や世の中の判断として、「P」が(事実がどうであるかとはいったん離れて)真であると認定される。	P:自由, 主文:ル, タ形	
	(7) できませんと言ったら、自分の無能力を認めたことになってしまう。		
B 事実の展開	「なる」以前には成立していなかった事象 P が「なった」時点で成立することを表す。	P:ル形 主文:自由	
	(8) a 人員削減が行われた結果、多くの人が職を失うことになった。 b 人員削減が行われれば、多くの人が職を失うことになるだろう。		

次に、前接形式と後接形式、「なる」のテンス・アスペクトという3つの観点から用例を整理し、詳しく考察する。その結果は、次の5点にまとめる。

- 1) ほとんどの〈ジャンル〉において「B 事実の展開」が最も多く出現したが、「ブログ」と「新聞」では「A-1-1 予定の決定」が最も多く現れている。
- 2) コトニナルが最も多く用いられる4つの用法（「A-1-1」「A-1-2」「A-2-1」「B」）の例に前接する動詞の中に特徴と言えるようなものがある。「A-1-1」は「結婚する」「付き合う」「働く」のようなプライバシーに関わる出来事を表す動詞が、「A-1-2」は「支給する」「負担する」のような政府の政策、規則などの公式的な文書で使われやすいものが挙げられる。また、「A-2-1」は「という」の出現率が圧倒的に多いことと「上昇する」「増加する」といった数量に関わる動詞が多く使われている。「B」は「受ける」「与える」は上位に出現している。
- 3) 〈ジャンル〉別の後接形式の出現状況について、ほとんどの〈ジャンル〉では「言い切り」が最も多く出現しており、それほど目立つ特徴が見られない。
- 4) 平叙・現在時・言い切りのコトニナルノダのノダはコトニナルの意味用法と関係なく、すべての用例（198例）が《告白・教示・強調》のような「聞き手に情報を提示する」用法を表す。従属節のコトニナルノダは「知恵袋」と「ブログ」で多く現れ、〈ジャンル〉の特性と関連していると考えられる。具体的に言うと、「知恵袋」において話し手（質問者）はコトニナルノダを用いて、自分自身の事情（特に「予定の決定」）を説明し、後文脈の質問や悩みなどを導き出す。また、「ブログ」においてはコトニナルの用法と関係なく、「逆接」を表すものが多い（80%）。その理由として、「逆接」のノダは「が」よりやや「意外性」が示されており（野田，1997）、ブログは覚え覚え書きや論評などを加えて記録するウェブサイトの一種であり、日記のような内容が多いため、毎日のように起こる平凡な出来事より、予想されていないことや、面白がっていることなどが記録されやすいと考えられる。
- 5) 鈴木（2017）のA-2タイプ（「A-2-1 論理的帰結」と「A-2-2 ある視点からの事態把握」）の「なる」のテンスはル形に限らず、タ形を用いることも可能であり、鈴木（2017）の主張と異なる結果が明らかになった。

参考文献

- 鈴木義和（2017）「「P ことになる」形の文について」『国文論叢』（52），pp. 1-16，神戸大学国語国文学会。
- 高橋太郎（1993）「ダブルテンス研究のすすめ」『立正大学国語国文学』（29），pp. 1-6。
- 野田春美（1997）『「のだ」の機能』くろしお出版。
- 森田良行，松木正恵（1989）『日本語表現文型』，アルク。